

## 行政・一般事務

### ■現在どのような業務を担当していますか？

地域防災力の向上、地震や台風等の災害に備える防災講習の準備などを担当しています。災害に備える備蓄をせよにするためには、地域住民一人ひとりが、「自分の命や家族、地域は自ら守る」という考えを持ち、「自主防災組織」と呼ばれる防災に関する組織をつくり、行政と連携しながら、災害に備える地域づくりを進めていく必要があると、私は、この「自主防災組織」の充実強化を始めとした地域防災力の向上について、市町村や関係と連携を図りながら進めています。

### ■なぜ青森県職員になろうと思ったのですか？

青森県内で生まれ育った自分にとって、ふるさとへの愛郷心から自然と興味が湧いたと思ったのですが、また、行政という職種は、分野が固定され、様々な業務に取り組むことができるので、様々な業務を経験し、その中から自分の方を生かせる分野を見つくり、やりがいを味わって働くことが出来る点に惹かれました。

### ■今までの仕事で特に印象に残っていることは何ですか？

新採用でつくば支事務所に勤務していた際、大規模な防災講習会、そのクワガタ部会を推進するため、午前3時に起きて、午前7時開演の講師の準備に奔走して自ら入浴し、入浴したことで、無数のクワガタのことで驚かされそうなお客や、朝に入ったばかりの準備中、実際に自分の目で確認したとき、お客様からの質問や、現場の市民の生の声を聞くことの大変さを実感しました。

### ■これまでどのような職場や業務を経験しましたか？

私は新採用で、下北のつくば支事務所に配属となり、3年間、漁業に係る許可申請や漁船登録業務に従事しました。その後、本庁で働いてみたいと希望したところ、防災訓練課へ異動となり、火災予防や消防訓練に関する業務の担当を経て、現在の業務に就いています。



## 行政・一般事務

### ■現在どのような業務を担当していますか？

私が所属している中で、県外で行われる青森の観光キャンペーンの企画運営、東アフリカの誘客や冬季観光の強化などの仕事をしています。私は、そうしたキャンペーンや県内の観光情報や、テレビや観光で使用するのコーディネーターや撮影対応などの業務をしています。

### ■なぜ青森県職員になろうと思ったのですか？

青森県は自然、食、祭りや方言など他にはないたくさんの魅力があります。さらに、季節ごとに地産品ごとの楽しみ方などがあり、青森県はいつでもどこで訪れても新しい発見がある場所だと思います。そんな青森県に多くの人が訪れ、多様な魅力が活かされたに代わりの仕組が実現したいという思いから、私はこの仕事を志望しました。

### ■今までの仕事で特に印象に残っていることは何ですか？

おもてなし活動に取り組む地元の方々を取材したことで、地元の方々は、独自に開発した販促の販売や、ボランティアで観光ガイドをしているなど、工夫を凝らしたおもてなしで観光客をお迎えしていました。こうした地元の方々のあたたかいおもてなしが、観光客から好評だったので、この仕事を志して改めて実感しました。

### ■どのような時ややりがいを感じますか？

「青森県にはいろいろな魅力がある。ぜひ行ってみたい」と笑顔で話しかけられたりやりがいを感じます。観光の仕事は、実際現場へ足を運び、お客様や観光客の方々の生の声が聞けることの魅力だと思います。



## 行政・一般事務

### ■現在どのような業務を担当していますか？

私が所属する地域振興課では、弘前市周辺地域の振興を図るため、歩行者観光の推進、ネットアップ/スクワアの普及推進、伝統工芸産業の復興、過半数の活性化などに取組んでいます。その事業の企画や運営に関わっています。「スクワア」は3階 現行3階で考えるという節家の方針のもと、積極的に地域に飛び出し、企業や団体と連携しながら、スピード感をもって事業を進めています。

### ■今までの仕事で特に印象に残っていることは何ですか？

平成20年度に総務省に所属し、地方財政制度の設計や運用に関する仕事に携わりました。職が閣の中央府庁の製造した書類のなかで、国会審判の作成や年度ごとの業務を体系で見たことは、とても貴重な経験となりました。また、全国の自治体とのやりとりを通して、青森を相対的に捉え、分析する力がつきました。

### ■どのような時ややりがいを感じますか？

感謝の言葉ももらったときです。伝統工芸産業の後継者を育成する取組として、高校生・大学生を対象に製作体験を実施したときに、受講者から「とても楽しかった」「将来工芸の道に進みたい」という声をいただきました。製作体験への参加をきっかけに工芸関係の企業に就職した受講生も、企業関係でその場によかったと実感しました。

### ■これまでどのような職場や業務を経験しましたか？

採用時の配属先は、市町村の財政政策支援を担う市町村振興課でした。そこでは、市町村「市町村財政交付金交付金」に関する業務を担当しました。採用直後から、県庁内では市町村のこと、市町村や関係団体を含めたネットワークが急速に構築され、いろいろな分野で活躍する人たちの対話を通じて、社会人としての視野がぐんと広がっていったと思います。



## 教育事務

### ■現在どのような業務を担当していますか？

私が現在担当している主な業務は、PTA会費、学年費をはじめとする学校収金金の徴収を担当する課入事務。統合システムを利用して給与・徴金の管理をする事務です。また、普段から事務の窓口として保護者や来客への応対も行う予定です。

### ■なぜ青森県職員になろうと思ったのですか？

もともと生まれ育った地元のために何かしたいとは思っていました。当時の前職では、私の学年担任にも学校に事務室がなくて事務職員がいませんでした。当時の私はまだ入職していませんでしたが、就職体験などを通じてその業務を知り、その中で一番身近だった学校の事務職員にぜひともなりたいと考えるようになったのです。

### ■今までの仕事で特に印象に残っていることは何ですか？

採用されてから数年の間に給与・賞与制度が一新され、「統合システム」という新しいシステムが導入されたことで、今まで事務職員が担当していた先生方の給与とシステムに関する業務は、システムを利用して先生方が自ら入力、申請することになりました。この新しく導入されたシステムを使い方を説明し、自ら申請できるよう、その内容を理解してもらおうとが大事でした。

### ■これまでどのような職場や業務を経験しましたか？

初任校は本州東北の高校でした。そこで4年間勤務した後、同じ下北地域の現在の勤務校に赴任しました。私は津軽出身で下北を訪れたことがなかったため、とても新鮮な環境に感じました。こちらの職場でも毎年4月1日の開、同僚の休務等による事務業務が少ない時期が訪れることが、その時の経験から、今では事務で働く業務の仕方の一部について経験することができました。

